



同好会ひろば

第304号
R6.9.2
No.4

～今後の予定～

- 9月12日(木) 19:00～ 小学校部会 (港区 小碓小学校にて)
- 9月12日(木) 19:00～ 中学校部会 (中区 伊勢山中学校にて)
- 10月10日(木) 19:00～ 第三回授業づくり講座 (名古屋市教育館にて)
- 11月20日(水) 18:30～ 名古屋市社会科同好会懇親会 (ルブラ王山にて)

「フィールドワーク」 8月5日(月) 焼津市にて

「みて」「ふれて」「たべて」を合言葉に、社会科教師としての見識を広げるために、焼津水産加工センターや焼津港などを見学してきました。

見学先① 焼津水産加工センター

焼津港で水揚げされたカツオが、様々なものに加工されることを学びました。焼津港で水揚げされたカツオは、カツオ節やカツオのたたきだけでなく、缶詰、練り製品(はんぺん・なると)などにも加工されます。焼津は、関東地方と私たちの暮らす東海地方のほぼ中間に位置し、地理的にも流通がしやすい環境にあったため、大いに発展してきました。

また、焼津水産加工センターの方から、水産加工物として有名な「カツオ節」が、世界一番固い食材としてギネスの認定を受けていることを聞き、参加者から驚きの声が上がりました。その後、カツオ節の削り体験をしたり、カツオ節ができあがるまでの多くの工程について見学したりしました。



削るのは、硬くて難しいな。

ふわふわ、美味しい!



削りたて～美味しい!



【カツオ節削り体験】



コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどに並ぶ「めんつゆパック」。このパックの汁には、カツオを煮た後に出る煮汁が活用されている。



燻製するために必要な薪。薪は、長野県の「ナラの木」を用いている。薪を絶やすことのないように、仕入れを行っている。しかしながら、薪を切り出す薪業者も、漁業関係者と同様に、高齢化が進んでいる。そのため、購買価格に無理のないようフェアトレードを心掛けたり、薪を購入する地域を分散させたりして、薪が不足しないよう対策している。



カルシウムが豊富な骨は、粉末にして、給食センターで給食に混ぜている。「魚があまり好きではない」という子どもも、知らず知らずのうちにカツオの栄養を摂取している。

見学先② 焼津港さかなセンター

海鮮丼やマグロのしゃぶしゃぶなど、「さかなのまち焼津」の美味しい海の幸を味わいました。また、食事をしながら語り合うことで、親睦を深めることができました。

とっても
美味しい
です！



焼津の
海鮮丼
最高！

見学先③ 焼津港

10ヶ月～1年ほどの長期間の漁を終えて帰ってきたマグロ漁船から水揚げされる魚を間近で見学することができました。クレーンに吊るされて運ばれる様子は、圧巻でした。

近くで見ると、
すごい迫力！



船内で働く人は、25～30人である。その中で日本人は7～8人であり、管理者として働いている。外国から働きに来ている人々が多いことが分かった。

マグロは、1kg 1800～2000円で取引されている。小さいマグロで30kg、大きいマグロで100kgある。それらが、1回のクレーンに60～70本ほど吊るされている。

30名以上の方が参加しました。
2024.08.05



【フィールドワーク参加者の声】

参加者

しおりに写真や図が多く載っており、内容が分かりやすかったです。特に、カツオ節を作るための工程が多く、とても手間が掛かっていることや、漁港での水揚げのシステムなど、今回のフィールドワークで学んだことを、いただいた DVD 資料を活用しながら、今後の社会科学習や食育など、様々な場面で生かしていきたいと思います。



カツオ節を削る体験ができたり、水揚げの様子を見ることができたりして、とても貴重な経験をさせていただきました!どの経験も、2学期の授業に生かせそうです!また DVD も作ってください本当にありがとうございました。感謝の言葉しかありません。

今回学んだことを5年生の担任に紹介したいと思います。また、次に5年生を担当したときには、子どもに興味をもたせる導入ができそうです。ご飯も美味しかったです、とてもすてきな夏休みの思い出になりました。



カツオ節を実際に削ったり、作っているところを見たりするのは初めてだったので、楽しかったです。水揚げもニュースなどでしか見たことがなかったので、実際に目の前で見ると、とても迫力がありました。

【フィールドワークを企画・運営を担当した同好会員】

道徳小
渡邊 丈芳先生

大須小
湊 悠希先生

千年小
前田 はるか先生

宝神中
光岡 優哉先生

陽明小
吉川 武蔵先生



打ち合わせの段階から、漁師の方をはじめとする水産業界に携わる人々の仕事に対する情熱、目の前で水揚げされる大量の魚、カツオ節へと加工される様子などを間近で見えてきました。教科書や動画、インターネットに掲載されている情報などの資料からだけでは感じられないことを見ることができ、教材を足でかぐことの大切さ、面白さを改めて実感することができました。ご参加いただきありがとうございました。

「若手交流会」7月25日(木)高蔵小学校にて

若手会員が、同年代の先生とつながることのできる場として、「若手交流会」を開催しました。若手交流会では、学級経営や教材研究、時間の使い方など、5つのテーマを基に、エンパワーメントトーク（聞き手は、話し手の努力や素晴らしさをフィードバックすることを意識して聞く）を通して、日頃の悩みを共有したり、互いの実践を紹介し合ったりして、若手会員同士のつながりを広げました。



「きらり輝く社会科授業」

「地域で働く人との出会いを通して、よりよい社会の在り方を考える」

小学校3年 「農家の仕事」

正木小学校 堀江亮介

愛知県の野菜の産出額は全国5位を誇る。しかし、愛知県での野菜の消費量は全国で最下位である。私は、子どもたちを名古屋市で野菜を作る農家Aさんと出合わせ、農家の野菜づくりの工夫について追究する中で、この課題と出合わせた。そうすることで、社会の課題を身近に捉え、よりよい社会の在り方を考えようとする子どもが育つのではないかと考えた。単元の導入では、Aさんが作ったトウモロコシを試食させた。「こんなに美味しいトウモロコシ、どうやって作っているのだろう」という子どもの声から、学習問題を設定した。そして、Aさんを謎の人物「X」として、その人物像を考えながら調べ学習を進めた。調べる段階の最後に、Aさんと対面する機会を設けた。これまで調べたことが本当かどうかを確認したり、Aさんに質問したりする子どもたちの目は輝いていた。さらに、Aさんから愛知県の野菜の消費量が最下位であるという課題を聞いた。「私たちにできることはないかな」と、子どもたちからは、解決策を考えたいという言葉が返ってきた。その後、自分たちにできることを考え、友達と互いの考えのよい点や改善点を検討し、Aさんに提案をした。Aさんに一生懸命考えた解決策を認めてもらった子どもたちは、「早く実践したい」と意気込んでいた。身近な地域で働く人を取り上げることで、社会の抱える課題を「何とかしたい」と思う身近な問題として捉え、自分にできることを考えることで、よりよい社会の在り方を考えようとすることができた。



「生徒も教師も夢中になれる授業を」

中学校1年 地理「世界の諸地域—アジア州—」

長良中学校 栗栖孝明

「生徒が夢中になる授業をするためには、まずは自分が夢中にならなければならない」社会科同好会の活動を通して、御助言いただいた言葉である。経験が浅く、教材開発が悩みの種であった自分にとって、この言葉は大きな勇気となった。「自分が夢中になれるものは何だろう？」と考え、たどり着いた答えが、自分が青春時代をささげた「剣道」であった。教室に竹刀を持って入った時、「体育の時間だっけ？」と目を輝かせる生徒。「剣道を発展させるためには、アジア州のどの地域と手を結ぶとよいか」という学習課題を伝えると、「剣道と地理がつながるって面白そう」と、教室の雰囲気は一気に真剣味を増した。学習の導入では、学習課題に対する仮説を考え、「東アジアなら防具を安く生産できるかもしれない」と考えた生徒は、その後の追究で、日本の多くの企業が東南アジアに進出していることに気付いた。「剣道って暑くて、くさいイメージがある」という生徒には、実際に道着と防具を着用させた。面白半分道着に袖を通した生徒も、道着が綿素材でできていることに気付き、「ジュートを活用すれば、涼しくて動きやすい道着を開発できるかもしれない」と、南アジアの繊維産業と関連付けた。

「剣道からも地理を学ぶことができるのですね」これは授業後の生徒の発言である。それに続けて、「もっとみんなに納得してもらうために、徹底的に追究したい」とも語った。教師の夢中が生徒の夢中に火を付け、主体的に学ぼうとする姿を育てることができたと感じた瞬間であった。

